

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年2月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4691600151
法人名	医療法人 たからべ会
事業所名	グループホーム いちにさん
所在地	鹿児島県曾於市財部町南俣11370番地 (電話) 0986-51-6123
自己評価作成日	令和6年1月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が事業所でも在宅に近い生活を過ごせるように介護支援しています。理念として「地域と連携しご利用者様が、その人らしい生活が送れるように敬意を持ってより良い支援に努めていきます」を念頭に置き日々、入居者様と接しています。以前は、外部との交流として、子供達が夏休み期間は2回ほど10人前後の子供達が訪問し歌を歌ったり入居者様の肩たたきをしたりして楽しく過ごしていました。また、敬老会や誕生会などに地元の社会福祉協議会へボランティア要請を行い、地元のボランティアの方々に訪問していただき踊りや民謡などを披露され楽しい時間を過ごしていましたが近年、新型コロナウイルス感染症の影響で全てにおいてボランティア訪問を中止しています。今後は感染状況をみながら随時、再開も検討していきたいと思っております。現在は事業所内で可能な限りの行事やレクレーション等を行っています。外出機会が少ない為、個人別でコスモス畑や桜花見などのドライブを行い気分転換も図っています。そして、春から夏にかけては職員と一緒に野菜・花植えを行い野菜収穫、花の成長を楽しむに努めております。介護職員は、仕事への意欲や知識向上を図る為に、毎月、事業所内での勉強会を行い、最近では、新型コロナが5類へ移行され外部研修会への参加も積極的に行っているところです。

- ・当事業所は、支所や消防署等が近隣にあり、支所担当者や消防署との連携も取りやすい。交通の便もよく、近隣の声掛けや家族も気軽に訪問できる立地にある。
- ・地域に根差した医療機関が母体であり24時間医療連携体制が整っている。看護師資格を持った職員も多く、利用者や家族の医療面での安心につながっている。
- ・地域内に法人系列のグループホームが3ヶ所あり、毎月合同会議を開催し情報を共有しており、事業所の特性を活かした運営が行われている。
- ・管理者・職員間のコミュニケーションも良好で、勉強会の開催や外部研修への参加、資格取得の奨励と支援、資質の向上、働きやすい環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げており理念に沿ったケアを心掛けている。そして、朝の申し送り後に理念を復唱している。	開設時にスタッフで考えた理念があり、玄関・事務所に掲示し、ネームの裏にも記載している。申し送り時やミーティング時に確認と振り返りを行い、常に理念に沿ったケアを心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	災害時は近隣住民への強力体制がある。以前は毎月住職による法話訪問と夏休み期間は子供達の訪問、道の駅への買物や県下一周駅伝大会応援時に地域住民と率先して会話をしていたが新型コロナウイルス感染流行後は交流を控えている。	コロナ感染対策のため地域住民との交流は控えており、地域行事も中止が続いていたが、夏祭りが久しぶりに開催された。今後は感染症の状況を見ながら駅伝応援も検討している。家族からの差し入れはある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域包括センター主催の研修会に参加したり、社協依頼により認知症家族のサロンを開催したこともある。運営推進会議では地域住民代表・民生委員・社協・市介護保険課の参加があり意見を頂いていたが現在は文書による意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>以前は毎回外部から4～6名の参加を頂き、事業所での行事や取り組みを報告していた。現在は新型コロナウイルス感染症の影響にて文書による意見を頂きお互い情報共有のもと今後の介護支援に活かしている。</p>	<p>会議は写真付きの行事報告やヒヤリハット・事故報告・ホーム便り等を文書による報告と電話による意見や情報共有を行っている。コロナ感染対策についての質問や面会について他事業所の様子等の情報提供があり、運営に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>市町村担当窓口を定期的に訪問したり運営推進会議の報告を行ったりしてこまめに連携をとるようにしている。</p>	<p>支所が近いこともあり、窓口に日常的に訪問している。研修案内があり積極的に参加している。運営推進会議資料を通して、事業所の状況を報告して話し合い、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を設けており身体拘束廃止についての勉強会も行っている。現在まで身体拘束ゼロで今後も身体拘束廃止に努めていく。厚生労働省告示による令和5年度権利擁護推進員養成研修参加施行。</p>	<p>指針・マニュアルがあり定期的に身体拘束廃止委員会を開催している。年1回の内部研修や勉強会、毎月のミーティング時に事例を出して確認と意識の統一を図っている。昼間の入口の施錠を含め、行動制限や言葉の拘束のないケアに取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>事業所内でも毎年虐待防止についての勉強会を行い、日頃から会話による心理的な虐待につながらないように言葉使いに気をつけている。また、身体的虐待も防止できるように職員同士で意識を高めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>権利擁護に関する勉強会を事業所内で行っている。厚生労働省告示による令和5年度権利擁護推進員養成研修参加施行。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、一方的に説明するのではなく御家族の話に耳を傾け時間をかけて納得・理解を得られるようにしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居者様の意見・不満・苦情に対しては随時カンファレンスを行い解決策の検討をしている。ご家族においては面会時に気が付いた事や希望・要望等の有無を尋ねている。また、玄関に「ご意見箱」を設置している。</p>	<p>利用者からは日常会話の中から、家族からは電話連絡時や面会時に意見や要望を聞いている。情報は職員間で共有し、必要時にはカンファレンスを通して運営に反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや日々の勤務時・休憩時に職員が管理者と気兼ねなく意見交換ができるように配慮している。毎月法人内のグループホーム会議あり意見交流をしている。	朝礼やミーティング時、日常の業務中など管理者と職員のコミュニケーションが図られており、申し送りノートや議事録で情報を共有している。毎月の法人内グループホーム会議で意見を聞いて反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	勤務態度、休日、意欲などの観察や把握など常に行い働きやすい環境作りに努めている。有給も仕事に支障がない限り積極的に取り入れている。また、研修案内時も積極的に参加するように声掛けしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会参加が難しい時期もあり事業所内の勉強会を中心に参加するように声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は市主催の認知症ホームの会、ケアマネ支部会、地域の多職種連携の会を通じて知り合った他の事業所との交流を図っていたが現在は新型コロナウイルス感染症の影響により交流を控えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまでの期間が短いことが多く、御家族、担当ケアマネ、サービス事業所より入手した情報をもとに入居者様と日常会話の中から不安や要望を聞き出し安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に御家族と話しをしながら困り事や要望等を聞き信頼関係を構築し安心して利用して頂けるようにコミュニケーションを図っていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様にとって一番良いと思われるサービスは何か、どこで生活するのが一番良いのかを考え御家族と一緒に検討を行う。例えば、身体能力に応じて本人・家族と相談して歩行器か車椅子の選択をしたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ・台拭きなどを一緒に行ったり食事の味見をして頂いたりしている。そして、入居者様の若い頃の思い出話や歌を一緒に口ずさんだりして共有できる時間を築けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙で時季話題や入居者様の状況報告（写真同封）をしたり面会時に近況報告をしたりして情報共有している。また、御家族が遠方の入居者様には毎月電話で話しができるように環境作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診などに入居者様が生活していた地域・懐かしい景色を見れるようにドライブすることもある。天気の良い日は地元名所のコスモス・桜を見に行ったりしている。	医療機関受診後に知人等との交流やミニドライブに行っている。理美容は訪問で対応している。電話の取次ぎや手紙のやり取りなど馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い入居者様、怒りっぽい入居者様と、無口な入居者様等がおり、その時のニーズに合わせて座席配置をしている。そして、孤立する入居者様がいないように職員が入居者間での調整役を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所サービスを利用された方に対しては特に行っていないが同系列病院に入院された方は折に触れ見舞い（現在、面会制限あり）に行き近況を伺ったり相談にのるなど支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人希望・意向に沿えるよう日常生活の中で関心を持つように努めている。新型コロナウイルス感染症の影響で外出回数が減った分、庭での屋外食や散歩、プランター菜園を行ったり行事回数を増やしたりしている。	入居時のアセスメントや家族からの情報、日常会話の中から思いや意向を把握している。毎年、本人の希望を聞き一緒に考え、絵馬や七夕等に記入している。把握した内容は職員間で共有し運営に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族や担当ケアマネより生活歴などの情報収集を行い、入居後は日々のケアの中で本人自身から生活歴や暮らしぶりを聞き出している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、身体状況の記録（排泄の有無・血圧・体温・食事と水分の摂取量）を行い体調の把握をしている。体調変化時は随時、対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリング、毎月のミーティングで気付いた事や意見を出し合い介護計画に反映させている。また、毎朝の申し送りでも必要に応じてカンファレンスを行っている。そして、御家族へは、随時、現状報告を行い情報共有している。	モニタリングは3ヶ月毎に行っている。担当者が中心となりミーティング時等に情報を共有して介護計画に反映している。介護計画の見直しは6ヶ月毎、必要時には随時見直しを行い、主治医の意見や本人・家族の意向を踏まえた現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別적으로、その日の様子やケアの記録を毎日、介護記録に記入している。毎朝、申し送り時に情報共有を行いより良いケアへつなげられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・御家族の要望に応じて病院受診、外出、外泊等の対応をしている。新型コロナ流行以前は集団での外出が多かったが、現在は個別での外出を行い感染予防に努めながら利用者様の意向に沿うようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の住職が毎月訪問され、お経・法話をして頂いている。夏季には子供達も訪問し交流を図っている。また、社会福祉協議会と連携しボランティアによる舞踊・長唄などを依頼している。（現在は控えている）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・御家族同意のもと、かかりつけ医療機関に受診し緊急時も素早い対応ができており往診・訪問看護も受けられる。昨年は救急車によるかかりつけ医への搬送1件（意識消失）あり、そのまま入院となる。	本人・家族の意向のもと、母体医療機関が主治医となっており、月1回職員同行で受診している。必要時には往診、訪問看護利用も可能で24時間医療連携体制も整っている。他科受診は基本は家族対応で必要時には職員が対応している。看護師が在籍しており、医療機関との連携が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員3名おり常時、情報共有し必要に応じて臨時受診している。そして、協力医療機関への定期受診により入居者様・医療機関職員共に顔なじみになり親しい声掛けができていく状況にある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際は面会に行ったり病院の主治医や看護師と随時、情報交換を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の御家族・かかりつけ医などと相談し方針を共有している。</p>	<p>重度化に関する指針・マニュアルを整備し、入居時に説明し同意を得ている。状態変化時には主治医からの説明があり、家族の意向を確認し意向に沿った対応が行われている。看取りの事例はないが、今後希望があればチームを組んで支援していく計画である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時対応についてはミーティング時に随時、対応手順の勉強会をしている。そして、職員の半数は普通救命講習受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防士立ち合いの消火訓練・自主避難訓練を行っている。近隣住民へも協力依頼をして応援体制をとっている。消防署も近隣で非常に心強い。そして、緊急災害に備え市役所より防災ラジオを支給してもらい緊急時の素早い情報を得ている。また、非常用の備蓄品も常時管理している。県・市からの通知・案内を確認しながら情報収集している。</p>	<p>年2回、うち1回は消防署立ち合いのもと、夜間想定での避難訓練を行っている。連絡網が整備され、3月からは毎月、行動確認が行われている。緊急時、近隣住民への協力体制依頼を行っている。備蓄は米・水・黒砂糖・レトルト食品等を3日分、災害時の近隣住民受け入れ態勢も準備されている。防災ラジオの活用、消防署も近くにあり日頃から連携が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の自尊心を傷つけないように言葉使いには十分気をつけている。名前を呼ぶ時も個人に合わせて名字か名前で「○○さん」と呼んでいる。そして、排泄・入浴時は特に羞恥心を考慮してドアの開閉を確実にしている。	研修を年1回、勉強会も定期的実施している。入居時に名前の呼び方を確認して統一した呼び方で対応している。入浴介助や排泄介助時等、一人ひとりの人格を尊重した、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話で、本人の思いや要望していることを聞き出して思いに添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の生活パターンはほぼ同じなので本人の希望・要望時は可能な限り臨機応変に対応している。起床時間や食事時間など個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	2カ月毎に美容師訪問あり散髪してもらい大変喜ばれている。普段も鏡を見るように声掛け行い、髪型や顔色・表情等を褒めるような声掛けをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用しており行事食では大晦日に刺身、お正月にお節料理、イベント食を屋外で食べたりして楽しくて美味しい食事を提供している。誕生会では一緒にケーキ・デザート作りも行う。そして、食事前後の台拭きや食器の片付けを職員と一緒にしている。	旬の食材で職員が調理している。行事食やそば打ち、誕生月はケーキやデザート作りと希望食を提供、年数回はお弁当を楽しんでいる。台ふきや食器の片付けなど職員と一緒にしている。食事形態もミキサー食やきざみ食・トロミ使用など工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分量を毎日記録し少ない場合は、主治医指示のもと高カロリー飲料やスポーツ飲料を補給し栄養バランスや脱水防止に努めている。夏季は水分量を多めに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛け・毎日の義歯洗浄で口腔内の清潔保持をしている。自分で歯磨きできない入居者様は職員が義歯磨きをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康チェック表にて排泄時間をチェックしトイレへの声掛け・誘導を行い排泄支援している。また、オムツ使用している入居者様も日中はトイレ誘導を行い自然排泄を促している。	排泄チェック表を活用して声掛け誘導を行い、日中は基本、トイレでの排泄を支援している。パットの種類の工夫でリハビリパンツとパットへ改善されたり、リハビリパンツからトイレでの排泄へ自立した事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で排便確認行いスムーズな排便がない時は水分を多めに補給したり腹部マッサージをして自然排便を促している。2日以上便秘時は主治医指示にて下剤服用し排便調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回午後からの暖かい時間帯に入浴施行。体調に応じて入浴日を変更したり清拭を行うこともある。立位困難な入居者様にはシャワーチェアを使用し安全・安楽な入浴支援をしている。身体レベルに応じて浴槽に入る入居者様もいる。	入浴は週2回午後実施しており、浴槽に入れない利用者は2人介助でシャワーチェアでシャワー浴を行っている。拒否のある方については、声掛けの工夫や時間差で対応、状況に応じて入浴日の変更や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転防止にて日中はレクや手作業、テレビ視聴・新聞読み等を行い生活リズムを作っている。体力に応じ日中もベッド臥床して休憩している入居者様もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬・定期薬管理は全職員で行い、薬の変更などがあった時は、介護支援経過に記録しカードックスにも記入している。その後の経過観察も行い記録に残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせレク・掃除等を行っている。レクではカレンダー作成、貼り絵、色塗り、壁画作成などを行い達成感が得られるようにしている。掃除では拭き・掃き掃除を行い役割分担している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は個人（新型コロナウイルス感染症対策にて）でコスモス、桜、向日葵などの季節感を味わえるドライブをしたり近くの駅や庭を散歩したりしている。また、病院受診時はドライブを兼ねて景色を楽しんでもらっている。	天気の良い日には、公園や道の駅等に出かけたり、散歩で気分転換を図っている。ドライブで花見に行ったり、医療機関受診後にもドライブを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事業所にて一括してお預かりしている。外出の買物時での支払いを職員と一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者様からの要望時は御家族等にいつでも電話ができるようにしている。御家族から手紙、ハガキがきた時は代読している。入居者様も手紙を出されることもある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースはカーテンやドアの開閉を行いプライバシー保護に努めながら、静かな音楽を流したりしている。そして、室温・湿度を確認しエアコン使用にて環境調整している。玄関・ホールには毎月、季節毎の飾りつけをしたり写真を貼ったりして自然に会話が増えるような空間を作っている。	共用空間は天井が高くて広く、大きな窓があり明るい雰囲気である。エアコンや加湿器で室温・湿度を調整し、換気にも配慮している。壁には季節の手芸作品や写真・絵馬を飾り、音楽が流れている。畳スペースがあり落ち着く。それぞれが居心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが洋間と畳み間に分かれており畳み間で洗濯物を畳んだりして会話できる場所がある。洋間部分は日当たりが良いので光を背中に当てながら日光浴し世間話をされ楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常で使う置き時計・くし・鏡など使い慣れた物を使用している。居室棚には御家族との写真や自分で作成したカレンダーを飾ったりしている。必用に応じて衣装ケース・タンス・テレビを持参され個々で住みやすい環境作りをされている。居室の明るさも本人の希望に沿い調光調整している。	居室にはベッド・エアコン・棚が設置されている。照明の明るさは本人の希望に合わせている。個々にテレビやラジオ・時計等を持ち込み、家族の写真や手芸作品・カレンダー等を飾り、居心地よく過ごせる環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーである。移動・移乗に必要なローカ・トイレ・脱衣場・風呂場等には手すりを設置している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない